

「星空サマーコンサート」を終えて

(9組) 斎藤 孝子

去る8月26日(土)、第1回『福祉のまち御南「星空サマーコンサート」』を開催することができました。

当日は好天に恵まれ、県立総合社会福祉センターの野外ステージにおいて、障害者や高齢者にやさしい町づくりを目指している、御南地区の特色を生かし「みんなでみなん」をモットーに、かわいらしい園児の歌声や楽器演奏、小学生の「うらじゃ踊り」、中学生による吹奏楽、音楽好きの社会人グループによる演奏や歌声、そして福祉センターの皆さんと手をつないでの合唱などが、次々と繰り広げられました。フィナーレでは、笹ヶ瀬川河川敷から打ち上げられた花火により、大いに盛り上がり、2000年の過ぎ行く夏の思い出を共有することができました。また、ライオンズクラブの方々や、御南中学校同窓生のお母さん達による夜店もあり、色どりを添えていただきました。

はじめての企画で不行き届きの点も多々あったのではないかと反省し、実行委員一同心よりお詫び申し上げますとともに、無事終了することができましたことを、何よりも感謝申し上げます。これもひとえに町内会長さまをはじめ、消防団、体育協会、交通安全母の会などの、地域の皆さん方の深いご理解とお力添え、それに心温まるご芳志によるものであり、誠にありがとうございました。重ねて厚くお礼を申し上げます。なお、この「星空コンサート」が今回限りで終わることなく、福祉のまちづくりを目指す御南地区に、イベントとして続けていけますように、今後とも地域の皆さま方のご理解とご協力を、切に願います次第でございます。それと「みんなでみなん」のテーマソングができればいいなあ……と思っておりますので、併せてよろしく願います。

心が通じた星空コンサート

西本 早紀子

私たち御南中学校吹奏楽部は、地域の一員として星空コンサートに参加しました。夏休みの始めには吹奏楽コンクールがあり、少ししか練習することができませんでした。演奏する曲もなかなか決まらず、毎日暑い中での練習はとてみたいへんでした。そして、練習不足のまま迎えた星空コンサート当日、この日はいつもの制服とは違って、みんな楽しくできるように、みんな違うカラフルなTシャツを着て演奏しました。

この星空コンサートでは、全5曲を演奏しました。みんなを楽しませるために、いろいろなことを考えた結果、「男はつらいよ」で寅さんのまねをして歌をうたったり、「スターダスト」という曲で、顧問の斎藤先生がトランペットでソロを吹いたり、いろいろな工夫をしました。練習不足であまりいい演奏とはいえないけれど、1曲が終わるごとに大きなあたたかい拍手があり、とても楽しく演奏することができました。

そして最後には、アンコールをしてくれた人が何人かいたけど、時間

の関係でアンコールにこたえることができなくて、とても残念でした。私たちは、地域の方々のあたたかい拍手をもらって、大満足でした。またこのようなコンサートがあれば、もっともっと練習して、お客さんみんなを楽しませてあげたいと思います。



数値でみるこの夏の酷暑と少雨

今夏のあいさつ言葉は「毎日暑いすなあ！」か、「ひと雨欲しいですなあ！」で、酷暑と少雨は9月前半まで続き、その余韻がまだ残っている今日この頃である。このような異常気象は、平成6年に次ぐともいわれた。そこで、岡山市で記録された異常振りを数値でみよう。

梅雨期間は6月9日～7月18日の40日間で、これは平年並であったが、期間中の降水日数(日に1mm以上)はわずか8日、総降水量は143mmで平年の半分、すなわち典型的な空梅雨であった。

7～8月の気温は平均で実に2℃も高く(平成6年と同様)、真夏日(最高気温が30℃以上の日)は6月28日から9月10日まで、実に73日間連続し、残暑も厳しかったことを物語る。そして、この間ほとんど毎日熱帯夜(最低気温が25℃以上)で、寝苦しい夜が多かった。

一方降雨についてみると、7月の降水日は2日だけで、月総降水量は57.5mm(平年は134.8mm)、8月の降水日数はわずか1日(8/17)、16mm(平年は73mm)であった。6月も加えた3ヵ月間の総降水量は159mm(平年は207.8mm)で、これは岡山市での観測史上1位の記録的な少雨であった。ちなみに、降水量は内径20.5mmの受水器に降った、ある時間内の降水量を水の深さ(ミリメートル、断面積0.5mm²)として表わす。もちろん、これは万国共通である。

このような記録づくめの酷暑と少雨は、北日本を除く各地方共通であった。7月は梅雨前線が不活発だったうえ、8月に入ると太平洋高気圧の勢力が平年よりも強く、よく晴れたためである。余談であるが、今年の稲の作柄は良く、平成6年並みの大豊作が予想されている。

虫のはなし(4)

水路のコンクリート壁にへばりついているピンクのものは？

(8組) 平尾重太郎

今回ののはなしは虫ではなく、海外から侵入し農作物に有害な貝についてです。町内にはまだ水田があちこちにありますが。この夏から今でも、水路や水田のコンクリート壁にへばりついている、ピンクの親指大のものに気付かれた方も多と思います。色はピンクでもイボイボ状で、ちょっと薄気味悪い感じです。よく見れば水田内のイネや雑草の茎にもくっついているし、田をのぞけば水面下に大小の黒い貝が見られます。

ピンクのものは、スクミリンゴガイ(俗称はジャンボタニシ)という貝の卵塊(らんか:卵粒の塊り)です。1個の卵塊の大きさは様々で、数十から数百個(最高550)の卵粒が含まれています。成貝は7～9月に2～3日間隔で産卵し、1匹の貝は年に総数で2,400～8,600個の卵粒を産み、これらはふ化して幼貝となります。成貝の寿命は3～5年です。幼貝の全部は育たないにしても、たいへんな増殖力といえます。水田でイネやレンコン、イグサなどの若い茎や葉を食害し、まだ有効な防除法がないので、農家の人はたいへん困っています。この貝は南米アルゼンチンの原産です。海外から日本へ入ったのは次のような経緯でした。

貝を養殖して一儲けしようと、台湾の業者が南米から導入し、これに日本の業者も目をつけて、昭和57年頃各地の業者が台湾から貝を仕入れて養殖をはじめました。ところが、台湾でもまたわが国でも、案に相違してこの貝は食味が悪く、とても商売にならないことがわかりました。

こんなわけで養殖が放棄され、貝は野外に逃げ出し、野性化して拡がりました。成貝は河川を1週間て100mぐらい遡行でき、貝の中では大型なので移動性は大きいようです。わが国では最初昭和59年に、沖縄と九州各地の水田で発生が確認され、その後相次いで西日本各地で見つかり、現在は茨城県以西の30府県に発生しております。岡山県での初発は昭和63年県南の平野部で、年々発生地域が広がっております。

◇ グラウンドゴルフ用具の貸し出しと大会のご案内 ◇

町内会で用具を購入保管しており、どなたへも貸し出します。各種団体、同好者グループ、家族などで、試合や練習に使ってください。用具の貸し出しは、各組の町内会役員か町内会長へ連絡してください。

現在、老人会の愛好者が月に2回(第1・3水曜日の午前)辰巳西公園で練習しており、これへの加入も歓迎します(希望者は町内会長へ)。グラウンドゴルフは老若男女いっしょに何人でもプレーでき、ルールはいたって簡単です。なお、グラウンドゴルフの大会は、12月3日(日)に田中野田の三世代交流会、続いて12月10日(日)には、田中・田中野田両町内会親善大会(御南中)が予定されております。